

		<p>北九州市立石峯中学校 学校通信 令和8年2月9日 No. 12 発行責任者 校長 本田壽志 学校所在地 若松区今光1-12-8 TEL 791-1225 FAX 791-1226</p>
---	---	--



ねがいごとえんぴつ



今日は、ドラえもんのお話をします。ドラえもんがついに未来に帰ることになりました。のび太君は、悲しくて悲しくて、泣きながら何度も「行かないで」とお願いしましたが、ドラえもんの心は変わりません。

出発の日、ドラえもんはのび太君に「ねがいごとえんぴつ」をあげました。「のび太君、もし、つらいことがあってどうしても我慢できないときは、このえんぴつで白い紙に願い事を書いてみてね。きっと願いがかなうよ。でも、それは一回きりだから、よく考えて使ってね」と言って未来へ帰っていきました。のび太君は一人ぼっちになってしまいました。でも、ひとつ考えを持っていました。さみしくて我慢できなくなったら、この「ねがいごとえんぴつ」で「ドラえもんが帰ってきますように」と書こうと。

そんなある日、ジャイアンがダンプカーにひかれて、病院に運ばれました。のび太君がスネ夫やしずかちゃんと駆けつけると、ジャイアンは意識不明の重体でした。ジャイアンのお母さんは涙を流しながら「たけしはもうだめかもしれない。」それ以上は声になりませんでした。

ジャイアンが死んでしまうかもしれない。のび太君はショックを受けました。でも、心の片隅で「ジャイアンにはずっといじめられてきた。ジャイアンがいなくなれば、もういじめられなくてすむんだ」と思いました。

家に帰ってからも、のび太君はずうっと考えていました。「ジャイアンにはずうっといじめられてきたんだ。誰が助けてやるもんか。それに、何よりもこの「ねがいごとえんぴつ」では「ドラえもんが帰ってきますように」と書くんだ。「ほかのことで使ってはいけないんだ」

のび太君は、今までのドラえもんとの思い出、ジャイアンとの思い出を何度も頭の中に描きました。そしてのび太君は決心しました。大粒の涙を流しながら、それでも力強くノートにこう書きました。「ぼくの大切な友だちのジャイアンの命が助かりますように」

防災・減災地域会議



1月30日（金）に藤木市民センターで防災・減災地域会議が行われました。2年生から■■■さん、■■■さん、■■■さん、1年生からは、■■■さん、■■■さん、■■■さん、■■■さんが参加してくれました。特に1年生は初めて参加する生徒もいましたが、みんな堂々とした態度で素晴らしい発表でした。地域の方から、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。

